

# I. 屋根雪・雪の吹きだまり対策

建物名 旭川市営北彩都団地  
立地 旭川市  
建物用途 公営住宅  
延床面積 4,224m<sup>2</sup> (1号棟)、4,968 m<sup>2</sup> (2号棟)

建物階数 地上9階  
建物高さ 27.8m  
構造 鉄筋コンクリート造

## ねらい

屋根から張り出した雪庇など屋根雪による問題は、落雪事故に繋がるため、計画時に対策を検討する必要があります。また風の強い地域ではアプローチや玄関に雪の吹きだまりが発生し、除雪作業など維持管理の負担が大きくなり、快適性も損なわれます。

ここでは、旭川市に建つ市営住宅“北彩都団地”を事例に、屋根雪対策と雪の吹きだまり対策のポイントを紹介します。



屋根の雪庇



雪の吹きだまり

## Point 建設地を考慮した雪対策

雪庇は屋根の風下側など雪が多く積もる位置に発生します。雪庇は降雪の度に大きくなるため、早めに除去する必要があります。雪庇が発生する位置に雪庇防止柵を設置し雪庇の張り出しを抑えるほか、落下が予想される位置に下屋や庇などを設ける必要があります。

### ① 雪庇防止柵



雪庇防止柵は屋根に積もる雪の深さに応じて高さを決める必要があります。格子状の雪庇防止柵は、風の通り抜けにより屋根の雪を減らし、雪庇が大きくなる前に除去する効果が期待できます。

### ② アプローチ



安全な建物へのアプローチを確保するには、雪庇が落下する可能性のある位置に下屋などを設けることが有効です。落下した雪の衝撃力に耐える強度、バウンドによる落雪を考慮した幅が必要です。



格子状の雪庇防止柵の仕様検討

## Point 雪の吹きだまり対策

雪が吹きだまる位置は、風向、建物形状、配置によって変化するため、風洞実験により位置を予測した上で対策を検討することが有効です。



風洞実験による吹きだまり位置の予測